

構築会兵庫支部 平成9年度見学会の概要

平成9年度の見学会は、6月の土曜日に初の一日コースとして前年に引き続き淡路島へ渡り、26名の会員と土木工学教室松井保教授、建築工学教室大野義照教授のご来賓の方々とともに、淡路夢舞台、南淡路のダム群などを見学しました。台風接近の報に気をもみましたが、東寄りに逸れて前日には過ぎ去り、当日は真夏のような強い日射しでした。

午前中に訪れた淡路夢舞台の面積は約28ha、関西国際空港などの土砂採取跡地に様々な動植物と人が共生できる空間を創造すべく、建物の着工前から地域固有の植生に基づく苗木を植えることから始め、斜面を利用した壮大なランドスケープに溶け込むように施設群を整備するという、世界でも類を見ない環境創造型プロジェクトです。

国際会議場、ホテル、レストラン・ショップ、展望テラスなどの施設は著名な建築家 安藤忠雄氏の設計によるもので、自然環境の創造と世界に開かれた多彩な交流空間の形成をめざして整備が進められており、兵庫県企業庁の大岸部長から、淡路ハイウェイオアシスを含めて概要をご説明いただきました。土砂採取跡地の法面緑化にも工夫が凝らされており、施工から3年程度の期間で背後地と遜色がないほどの緑に覆われていたのは見事でした。

淡路島公園で昼食を摂った後は、南淡路のダム群見学です。兵庫県洲本土木事務所の奥田室長、山田課長から三原川総合開発事業計画とダムの概要説明を伺いました。二級三原川水系は、淡路島南部の三原郡4町（緑町、三原町、西淡町、南淡町）に流域が当たり、洲本川とともに淡路島を代表する河川の一つです。三原川流域は急峻で保水力に乏しく、下流部は低平地で感潮区間が長いと古くより水害が発生し、とりわけ昭和40年の台風による多大な被害を契機に、抜本的な治水対策として論鶴羽ダムが昭和49年に完成しています。しかし、昭和54年にも大きな被害が発生したことから、水道用水の慢性的不足にも対処するため、三原川水系の一貫した治水・利水計画として策定されたのが三原川総合開発事業計画です。

この計画に基づいて建設されている4基のダムと完成したダムを合わせて、今回見学させていただきました。洪水調節専用が2基、水道用水との併用が3基で、形式はいずれも重力式コンクリートダムです。この時期はタイミング良くダムの建設過程を時系列的に見ることができました。基礎掘削中の成相ダム、堤体コンクリート打設中の北富士ダム、堤体コンクリート打設終了の大日ダム、試験湛水中の牛内ダム、完成した論鶴羽ダムと、普段ではなかなか見ることができない様々な建設過程の様子はとても迫力がありました。

行程の最後に洲本の新名所ミュージアムパーク・アルファビアを見学しました。100年の長い年月を経た赤レンガ工場群（旧鐘紡錦糸洲本工場）は、美術館「アルファビア」やレストラン「御食国（みけつくに）」として新しい息吹が吹き込まれていました。

見学会終了後の懇親会は、この御食国を会場に開催しました。洲本市の第三セクターが運営するレストランで、淡路産の食材にこだわった料理に舌鼓を打ちながら、淡路島に居ることもしばし忘れるほどで、高速艇の最終便に乗り遅れそうになるほど盛り上がった懇親会となりました。初夏の一日をフルに使った充実の見学会となり、参加者の弁によれば超真面目な見学会とのことでした。